

# 香美町 ならではの 教育の挑戦

●問い合わせ先 町教育委員会こども教育課

## 「複式学級での取組」

### 主体的・対話的で深い学び

学校の1学級の編制人数は、「公立義務教育諸学校の学校編制及び教職員定数の標準に関する法律」で、小学校は1年生が35人まで、2～6年生と中学校は40人までと定められています。

また、小学校は隣り合う複数の学年の児童数が一定人数を下回る場合、「複式学級」（2つ以上の学年をひとまとめにした学級）を編制しなければなりません。その基準が、兵庫県の場合は14人以下（1年生を含む場合は8人以下）であり、複式学級は当然のことながら、担任の先生は1人となります。本年度、町内の4小学校が複式学級を編制しています。

複式学級は、写真（右）のように、一人の先生が2つの学年を行き来しながら授業を行います。先生が片方の学年の授業を行っているときには、もう片方では、児童がリーダー役を担って学習活動を進めます。

このように、複式学級では、児童同士が協力し相互に学び合う姿を見ることができます。これは、本年度から小学校で全面実施となった「新学習指導要領」の大きなねらいである「主体的・対話的で深い学び」を具現化しているものといえます。



▲余部小5・6年で行われる複式学級の様子。一方では担任が授業を行い、もう一方では生徒が説明を行っています。

### 複式学級のよさ！！

少子化の進行により複式学級が増加し、「複式学級」そのものがマイナスに捉えられがちですが、児童1人に対してきめ細やかな指導が可能となることでより理解を深めるための指導ができることや、2つの学年と一緒に学校生活を送ると、上の学年は下の学年の面倒を見ようとするため「責任感」が育ち、下の学年は上の学年の姿から学ぼうとするため「向上心」が育つなど、多くのメリットもあります。



▲複式学級では、児童同士が勉強を教え合うなど、主体的・対話的な学習を進めることができます。

とはいえ、複式学級によって「人間関係の固定化や序列化」、「社会性の不足」などが生じることが懸念されていることは事実です。本町では、「学校間スーパー連携チャレンジプラン～学力向上ステップアップ授業～」を実施し、小規模校同士が交流する場を設け、コミュニケーション能力の向上や望ましい競争心の育成を図るとともに、複数の教師が協力して創り上げる効果的な授業により、これら不安要素の解消を図っています。